

# 子規顕彰 全国俳句・短歌大会

入賞作品紹介

正岡子規の業績を受け継ぎ、俳句・短歌の普及を図る「第51回子規顕彰全国俳句大会」が9月22日に、「第34回子規顕彰全国短歌大会」が10月23日に子規記念博物館で開催されました。俳句大会は昨年に引き続き、8,000句を超えるご応募をいただきました。また、短歌大会では今年から新たに文部科学大臣賞を設置しました。全国俳句大会の募集句8,008句、当日句297句のうち、特選49句を、全国短歌大会は1,435首のうち上位4賞、後援賞5賞および特選15首を紹介します。(敬称略)

## 第51回 全国俳句大会

募集句特選二十五句

稲畑 汀子選

何ひとつ無駄のなきとは登山の荷  
中谷 明子(兵庫県)

帰宅して避暑地と思ふわが家かな  
築山 道子(兵庫県)

草笛や母なき里は旅に似て  
谷 雅夫(富山県)

煤逃げの叶はぬ一人暮らしかな  
長山 敦彦(徳島県)

あまりにも怪ろき宇殿を焚きにけり  
両村 ゆきる(東温市)

井上 弘美選

空魚籠に鳥の子眼張呉れて去る  
頼経 素風(広島県)

柑橘の生まるる風や伊予簾  
松野 秀雄(東京都)

空蟬のまだやはらかき朝かな  
奥村 久子(松山市)

上位四賞

文部科学大臣賞

てのひらのくぼみは優しき器なり  
君が摘み来しトマトをのせる  
北村 節子(香川県)

愛媛県知事賞

山間にバス待つしばし白馬岳の  
雪崩のとよみ遠く聞こゆる  
竹野 ひろ子(東京都)

松山市長賞

島民を守る新型救急艇救急車も  
乗せ出動をする  
佐々木 加代子(今治市)

## 第34回 全国短歌大会

松山市教育長賞

猫の死を悲しみしころ人の死を  
まだ知らざりき幼きわれは  
西澤 京子(東京都)

後援賞五賞

現代歌人協会子規記念賞

銃口をわたしに向ける美男子に  
逢ひたくて来た夜の映画館  
西貝 里美(静岡県)

日本歌人クラブ賞

閉校となりし団地の小学校たち  
まち老人ホームとぞなる  
神田 宗武(千葉県)

短歌研究社賞

自衛官の夫と娘あるときはヒト  
マルマルと時を言ひ合ふ  
辻田 悦子(三重県)

毛虫焼く炎ふれ合ふ音がする  
工藤 俊雄(東京都)

夕星に向ひて上る小鮎かな  
日比野 勝(兵庫県)

辻 桃子選

太宰忌や枕の固き保健室  
渡部 桜桃(松山市)

子の病みてよりの子規忌をひとしほに  
多田羅 初美(大阪府)

一本の杭を締めつけ川凍る  
飯田 知克(青森県)

子規の部屋律の部屋とぞ夜の秋  
大前 逸子(高知県)

子規健啖芭蕉健脚脚雲  
金重 智也(岡山県)

高野 ムツ才選

水押ししてまなこが進む目高の子  
もりおか ともこ(香川県)

「短歌」編集部賞

「戦争になったらどこへ逃げま  
すか」子らの問ひたる避難訓練  
金澤 諒和(大分県)

現代短歌社賞

「また太くなりましたか」と仰ぐ樺  
わが山に来れば先づここに立つ  
森永 壽征(香川県)

特選十五首

秋葉 四郎選

島民を守る新型救急艇救急車も  
乗せ出動をする  
佐々木 加代子(今治市)

子規の部屋律の部屋とぞ夜の秋  
大前 逸子(高知県)

土塊と見えし雛よ麦鶉  
田村 令子(松山市)

赤子には母しか見えず花みかん  
石丸 千恵子(今治市)

燕の子持てる翼をまだ知らず  
竹本 桂子(久万高原町)

高岡 周子選

棟梁のひとり柄彫る大西日  
小山 尚宏(岩手県)

新緑や源流の水噴んで飲む  
中城 繁子(松山市)

宿坊の百畳に柱く蚊遣香  
山本 文枝(西予市)

売られゆく仔馬の燥々馬の市  
倉本 尚彦(東京都)

獲物曳く二匹の蟻の気の合はず  
織田 雅子(香川県)

坂井 修一選

閉校となりし団地の小学校たち  
まち老人ホームとぞなる  
神田 宗武(千葉県)

やがて来るいつか口ポットに持ち  
とき安けらんか哀しからんか  
久保田 淳子(東京都)

永田 和宏選

来たり立ち語れるところ劇場なりき  
death fell from the sky直前までは  
米安 幸子(広島県)

猫の死を悲しみしころ人の死を  
まだ知らざりき幼きわれは  
西澤 京子(東京都)

倉林 美千子選

自衛官の夫と娘あるときはヒト  
マルマルと時を言ひ合ふ  
辻田 悦子(三重県)

当日句特選二十四句

稲畑 汀子選

継がぬとも継ぐとも言はず稲刈る  
長谷川 雅男(松山市)

雨の萩風を忘れてをりにけり  
石野 桂子(西予市)

人事のやうに生きをり生身魂  
中城 繁子(松山市)

福谷 俊子選

口笛の少し乱るる敗戦日  
長尾 英世(松山市)

焼香に立つ少年の白きシャツ  
友澤 章子(砥部町)

鳥わたるころ玲瓏と水落つる  
二神 利恵(松山市)

鳥わたるころ玲瓏と水落つる  
二神 利恵(松山市)

尾形 冴子選

山間にバス待つしばし白馬岳の  
雪崩のとよみ遠く聞こゆる  
竹野 ひろ子(東京都)

「戦争になったらどこへ逃げま  
すか」子らの問ひたる避難訓練  
金澤 諒和(大分県)

尾形 冴子選

「また太くなりましたか」と仰ぐ樺  
わが山に来れば先づここに立つ  
森永 壽征(香川県)

被爆者を篤く抱きしめオバマ氏  
はヒロシマに残すか二羽の折鶴  
友澤 ユヨミ(伊予市)

倉林 美千子選

七十年経て戻りたる小作田祖父  
母父母だあれもあるない  
野村 貴和子(松山市)

やがて来る別れにも触れちろの夜  
清水 富美枝(松山市)

銀河濃し身の透けるほど空仰ぎ  
田邨 雅美(松前町)

高岡 周子選

秋雨やペンキのこびりつきし缶  
脇坂 空岳(松山市)

晩学のまど鶏頭のいる深む  
橘 信子(松山市)

読み止しの新書に戻る無月かな  
岡本 士郎(松山市)

江崎 紀和子選

きのふけふあすも晴天種を採る  
松田かをり(松山市)

秋雨やペンキのこびりつきし缶  
脇坂 空岳(松山市)

下り鏡水散らばりてゐるばかり  
山中 清子(大洲市)

横田 青天子選

雑音の多きラジオや厄日過ぐ  
杉山 望(松山市)

廃盤のレコード月に回りをり  
渡部 桜桃(松山市)

焼香に立つ少年の白きシャツ  
友澤 章子(砥部町)

台風の去りて天守に人の波  
菊地 孝也(大分県)

鬼灯を上手に鳴らし姉妹老ゆ  
山下 昭子(松山市)

横田 青天子選

城山を日傘にのせて城下ゆく  
仙波 節子(松山市)

渡邊 孤鶯選

まだ頭ささへる力鶏頭花  
徳永 陽子(松山市)

読み止しの新書に戻る無月かな  
岡本 士郎(松山市)

今朝の秋つまんだやうな雲ひとつ  
松本 麗子(松山市)